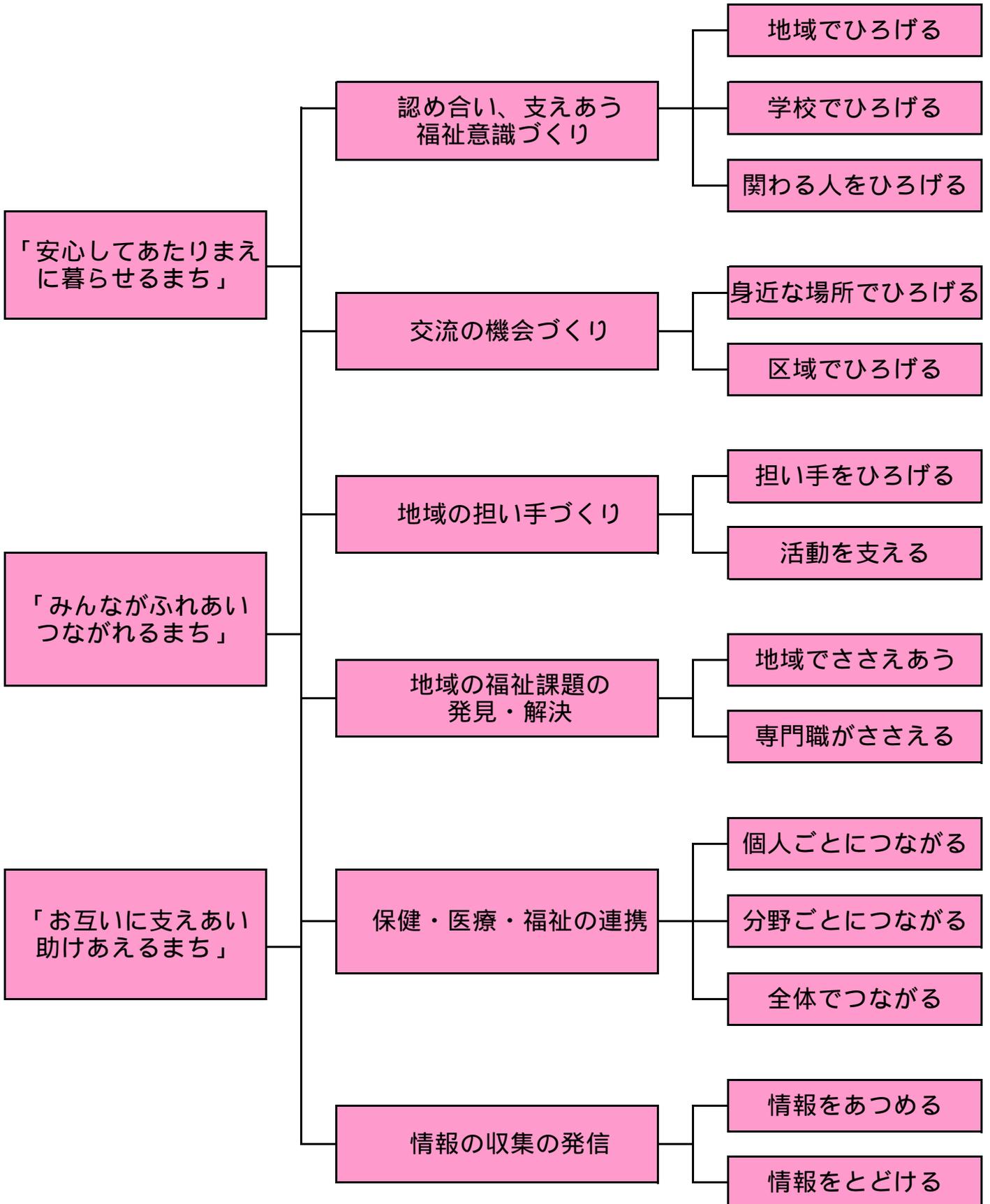


体系図

<理念>

<目標>
大項目

中項目



体系図詳細

新規事業

＜目標＞	＜中項目＞	＜小項目＞	[掲載P]	[シートNo.]
認めあい、支えあう福祉意識づくり	地域でひろげる	こどもふくし体験教室	27	- -1-1
		昭和区の福祉まつり	28	- -2-1
		手話教室	29	- -3-1
		認知症サポーター養成講座	30	- -4-1
		学生福祉塾(再掲)	(39)	(- -2-1)
	学校でひろげる	学校でとりくむ福祉教育支援	31	- -1-1
		生徒会でとりくむ福祉教育支援	31	- -1-2
	関わる人をひろげる	福祉教育推進プロジェクトチームの設置	32	- -1-1
		福祉教育セミナー	32	- -1-2

＜目標＞	＜中項目＞	＜小項目＞	[掲載P]	[シートNo.]
交流の機会づくり	身近な場所でひろげる	たまり場プロジェクトチームの設置	33	- -1-1
		たまり場立ち上げ支援	33	- -1-2
		たまり場世話人交流会・研修会	33	- -1-3
		たまり場の活動支援	33	- -1-4
		高齢者ふれあい給食サービスの活動支援	34	- -2-1
		福祉推進協議会の活動支援(再掲)	(40)	(- -1-5)
		にこにこサロンの開催	35	- -1-1
	区域でひろげる	「昭和区おもちゃライブラリーポップ」の開催	36	- -2-1
		介護者交流会「おしゃべりサロン」の開催	37	- -3-1
		はつらつクラブの開催(再掲)	(46)	(- -3-1)
		認知症家族サロン(再掲)	(50)	(- -3-2)
		昭和区の福祉まつり(再掲)	(28)	(- -2-1)

< 目標 >	< 中項目 >	< 小項目 >	[掲載P] [シートNo.]
地域の担い手づくり	担い手を ひろげる	ボランティア養成講座	38 - -1-1
		学生福祉塾	39 - -2-1
		手話教室(再掲)	(29) (- -3-1)
	活動を ささえる	学区福祉活動計画の策定	40 - -1-1
		福祉推進協議会モデル事業	40 - -1-2
		福祉推進協議会代表者連絡会	40 - -1-3
		地域福祉推進研修会	40 - -1-4
		福祉推進協議会の活動支援	40 - -1-5
		ボランティア連絡協議会の支援	41 - -2-1
		ボランティア連絡協議会の活動支援	41 - -2-2
		防災ボランティアネットワーク支援	42 - -3-1
		防災に関する講座	42 - -3-2
		災害ボランティアセンター設置運営訓練	42 - -3-3
		児童関係団体の活動支援	43 - -4-1
		心身障がい児者団体の活動支援	43 - -4-2
		高齢者関団体の活動支援	43 - -4-3
		低所得者世帯の支援	43 - -4-4
		ボランティア・その他団体の活動支援	43 - -4-5

< 目標 >

< 中項目 >

< 小項目 >

[掲載P] [シートNo.]

地域の福祉課題の発見・解決

地域から
つなげる

専門職から
つなげる

こころん支えあいネットの推進	44	-	-1-1
相談窓口プロジェクトチームの設置	45	-	-2-1
身近な相談窓口の設置	45	-	-2-2
はつらつクラブの開催	46	-	-3-1
ボランティア派遣依頼調整	47	-	-4-1
総合相談・権利擁護事業	48	-	-1-1
包括的・継続的ケアマネジメント事業	48	-	-1-2
介護予防事業	48	-	-1-3
予防給付ケアマネジメント事業	49	-	-2-1
認知症家族教室	50	-	-3-1
認知症家族サロン	50	-	-3-2
もの忘れ相談医の専門相談	50	-	-3-3
医療支援事業	51	-	-4-1
居宅介護支援事業	52	-	-5-1
訪問介護事業	52	-	-5-2
通所介護事業	52	-	-5-3
生活福祉資金貸付事業	52	-	-6-1
こころん支えあいネットの推進 (再掲)	(44)	(-	-1-1)
身近な相談窓口の設置 (再掲)	(45)	(-	-2-2)
はつらつクラブの開催(再掲)	(46)	(-	-3-1)
ボランティア派遣依頼調整(再掲)	(47)	(-	-4-1)

< 目標 >	< 中項目 >	< 小項目 >	[掲載P]	[シートNo.]
保健・医療・福祉の連携	個人ごとにつながる	専門職による個々のネットワーク	54	- -1-1
		こころん支えあいネットの推進(再掲)	(44)	(- -1-1)
	分野ごとにつながる	昭和区地域包括ケア推進会議	55	- -1-1
		昭和区障害者地域自立支援協議会	55	- -1-2
		昭和区子育て支援ネットワーク連絡会	55	- -1-3
		昭和区介護保険事業者連絡会	55	- -1-4
		福祉推進協議会代表者連絡会(再掲)	(40)	(- -1-3)
		ボランティア連絡協議会(再掲)	(41)	(- -2-1)
	全体でつながる	セーフティネットの構築と推進のための研究・協議	57	- -1-1
		昭和区における保健・医療・福祉の情報冊子	57	- -1-2
		地域住民と専門職との交流・啓発事業	57	- -1-3
		専門職向けに相互理解・相互学習の場を提供する事業	57	- -1-4

< 目標 >	< 中項目 >	< 小項目 >	[掲載P]	[シートNo.]
情報の収集と発信	情報をあつめる	情報冊子作成プロジェクトチームの設置	59	- -1-1
		困ったときのお役立ち情報冊子	59	- -1-2
		福祉情報紙『こころんねっと』	60	- -2-1
		ボランティア情報の収集・発信	61	- -3-1
		昭和区における保健・医療・福祉の情報冊子(再掲)	(57)	(- -1-2)
		ホームページの運営	62	- -1-1
	情報をとどける	障がいのある人への情報保障	63	- -2-1
		介護関係ビデオの貸出し	64	- -3-1
		身近な相談窓口の設置(再掲)	(45)	(- -2-2)
		困ったときのお役立ち情報冊子(再掲)	(59)	(- -1-2)
		福祉情報紙『こころんねっと』(再掲)	(60)	(- -2-1)

現状と課題

地域の大人や子どもが地域に生活する障がいのある人や高齢者など様々な立場の人と日頃から接する機会が少なく、福祉に関心を持ったり相互理解をする機会が少ない。

1次計画の評価

ボランティアや高齢者や障がいのある人などの協力を得て、福祉推進協議会で取り組む地域ぐるみの車いす体験事業などを実施してきたが、障がいのある状態を疑似的に体験するものなど画一的なプログラムに終わってしまうこともあった。
また、それにかかわる人のネットワークづくりも福祉学習サポーター連絡会ができたばかりで、関係者が集まったのプログラム検討にまで至らなかった。

2次計画の事業概要・方針

学区の中で、子どもたちが障がいのある人や高齢者など様々な立場の人とふれあい・交流をしていく中で自然と認めあえ、福祉意識を高めていくために、福祉推進協議会と連携しながら継続的に意識啓発ができる交流事業を企画・実施していく。

1 子どもふくし体験教室 【2層・区】

福祉教育推進プロジェクトチームと協力し、夏休みなどの期間を利用して、子どもが地域の様々な人とふれあいながら福祉にふれる機会を作る。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
推進協	実施		準備	1学区実施	1学区実施	1学区実施
区社協・プロジェクトチーム	企画・運営の協力					

現状と課題

昭和区内福祉施設、団体、ボランティアなど40以上もの団体が参加する実行委員会との共催により毎年8月に開催。7月初めにはシンポジウムも開催。3-8月に実行委員会月1回開催。平成20年度で26回目となる。参加団体に関わりのある人が参加者の多くを占め、新たな層の参加はあまり得られていない。

1次計画の評価

様々な人がふれあい交流できる機会として1次計画にあげられ、実施してきた。継続して実施してきたが、企画内容そのものはややマンネリ化してきている。

2次計画の事業概要・方針

今後も昭和区の福祉まつりの開催をつうじて、区民の福祉問題への関心を高め、福祉意識の向上を図っていく。また区民と福祉施設、障がい者(団体)、ボランティアが交流する機会を引き続き提供し参加者の拡大を図っていく。

1 昭和区の福祉まつり 【2層・区】

区民の福祉への参加意識向上と参加者拡大を図るため企画内容を見直していく。福祉まつりの分担金は財源の見直しとあわせて見直していく。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 実行委員会	実行委員会への参画 福祉まつりの共催	参画・開催				→
区社協	福祉まつり分担金の見直し	見直し (財源見直しに合わせて)			新方式	→

現状と課題

昭和区聴覚障害者福祉協会との共催により、過去15年にわたり初級編として開催。20年度は手話ボランティアの育成を目的として、レベルアップ講座を開催。ここ数年の講座参加人数は多くない。

1次計画の評価

長年続けてきたことで定着している。昭和区聴覚障害者福祉協会が実質上運営しており、昭和区社協は広報、参加者募集と経費負担を担ってきた。今後どのように関わるべきかが課題となっている。

2次計画の事業概要・方針

昭和区聴覚障害者福祉協会の運営に切り替えていくよう、開催形態等(初級、中級、昼間・夜間、共催のあり方等)について協議していく。

1 手話教室 【2層・区】

助成方式への転換にむけて検討していく。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 聴覚障害者 福祉協会	開催・見直し検討	開催 見直し検 討・協議		→		

現状と課題

認知症の人やその家族が地域の中で生活するには、地域住民の認知症への理解や協力が必要であるが、理解が不足しているため偏見等をもたれることもあり、地域の中で生活しにくくなっている現状がある。

1次計画の評価

平成19年度からの事業実施であるため、1次計画に記載はなかった。

2次計画の事業概要・方針

認知症の人や家族に対して温かい目で見守る応援者を1人でも増やし、安心して暮らせる地域づくりを目指すため、多くの区民に対し認知症の理解・普及啓発のための講座を定期的を開催する。

1 認知症サポーター養成講座【2層・区】

認知症に対する正しい理解や接し方・気持ちの理解を深め、地域の中に応援者を増やしていく。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 (包括支援)	実施	開催				

現状と課題

総合的な学習の時間など、学校の中で福祉を学ぶ機会は増えてきているが、障がいのある状態を疑似的に体験するものなど画一的なプログラムに終わってしまうこともあり、地域の中の人材を活かし切れていない。

1次計画の評価

主に学校でとりくむ福祉教育にボランティアの協力を得て協力してきたが、計画されたプログラムの検討までにいたらなかった。

2次計画の事業概要・方針

関わる人の養成・ネットワークをひろげながら、学校や地域の中にもとりくみをひろげていく。

障がいのある状態の疑似的な体験だけでなく、障がいのある人や高齢者などの地域の様々な人と継続的に交流することで自然と認めあうことをとおして、福祉意識を高めていく。

1 学校でとりくむ福祉教育支援 【3層・学区】

総合的な学習の時間や道徳・科目などの福祉に関する授業に、福祉教育推進プロジェクトチームと協力し、継続的な交流をとりいれたプログラムの提案やコーディネートをすることで協力する。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協・推進協・プロジェクトチーム	企画・実施	準備	1学区実施	1学区実施	1学区実施	1学区実施

2 生徒会でとりくむ福祉教育支援【3層・学区】

福祉教育推進プロジェクトチームと協力し、生徒会が主催するボランティア体験や交流企画などの企画・実施に協力する。各学校の生徒会が活動報告をし合ったり、協力し合うための生徒会連絡会を開催する。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協・生徒会・プロジェクトチーム	企画・実施			準備	モデル実施・生徒会連絡会	他校へ拡大

現状と課題

現在、ボランティアなどの協力を得て学校における福祉教育に協力している。また福祉学習サポーターの連絡会も立ち上がっている。今後も一層とりくみを広げていくためには、福祉教育に関わる人材の一層の確保やネットワークが不可欠である。

1次計画の評価

体験事業の実施やプログラムの作成などが計画されていたが、それに関わる人材の養成や関わる人のネットワークが計画されていなかった。

2次計画の事業概要・方針

関わる人の養成・ネットワークをひろげながら、学校や地域に取組みをひろげていく。

1 福祉教育推進プロジェクトチームの設置 【2層・区】

福祉学習サポーターや作業部会ワーキンググループメンバーを中心に、福祉教育を推進するプロジェクトチームを作り、協同実践をしていく。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 ワーキンググループ 福祉学習サポーター	企画・実施	グループ 立ち上げ				
		実施	→			

2 福祉教育セミナー 【2層・区】

学校の先生・当事者講師・ボランティア・施設職員などの福祉教育に関わる人の研修会を福祉教育推進プロジェクトチームの協力を得て開催し、モデル事業の提案や報告をしていく。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 プロジェクトチーム	企画・実施	開催	→			

現状と課題
 昭和区内でたまり場になっている場所は数としてはあるものの、開催地が偏っているため通いにくい人がいる。また、公的機関が開催しているものの割合が多く、地域住民で運営しているものはまだ少ない。

1次計画の評価
 1次計画では場の確保・人材の確保・サロンの推進が計画されたが、場の確保については具体的に情報を集めることができなかった。
 人材の確保については区域で担い手養成講座をしたが、具体的な受け皿がなく、サロンの開催に結びつかなかった。
 福祉推進協議会単位に働きかけ、サロンを立ち上げた学区もあったが、計画当初の目標どおりにはひろがらなかった。

2次計画の事業概要・方針
 より身近な地域で集まれる場として、歩いて行けるような範囲に「たまり場」を作っていくことを支援する。
 また、たまり場づくりを推進するプロジェクトチームを設置する。

1 たまり場プロジェクトチームの設置 【2層・区】
 作業部会ワーキンググループを中心にプロジェクトチームを設置し、メンバーを拡大しながら一緒に企画実施していく。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 ワーキンググループ	設置・運営	運営				→

2 たまり場立ち上げ支援 【3・4層 学区・町内】
 ・開催地で活動できる世話人の募集・養成講座の開催。
 ・候補地の情報収集・情報提供。
 ・具体的に人と場所と地域・福祉推進協議会をつなげ、たまり場の開催につなげる。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 プロジェクトチーム たまり場主催者	世話人募集・養成講座 候補地募集 立ち上げ支援	立ち上げ2 把握70	立ち上げ2 把握75	立ち上げ2 把握80	立ち上げ2 把握90	立ち上げ2 把握100

3 たまり場世話人交流会・研修会 【2層・区】
 ・たまり場世話人の交流会や研修会を開催しながら、相互の連携や情報共有を促す。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 プロジェクトチーム	企画・実施		交流会	→	研修会	→

4 たまり場の活動支援 【2層・区】
 ・運営助成金の見直しを、財源見直しに合わせて実施。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協	助成・見直し検討	見直し(財源見直しに合わせて)			新方式	→

現状と課題

現在11学区中9学区において、学区内で1か所、年に数回の会食や配食を実施しているが、担い手の負担や経費などの課題がある。

1次計画の評価

給食サービス実施主体に対し、研修会や連絡会を実施し意見を聞いたが、今のところは場所・対象者・コスト・内容について現状維持をしていくということになった。

2次計画の事業概要・方針

学区の給食サービス団体が実施する、在宅の高齢者等を対象とした食事を介した学区単位のふれあい事業を支援する。

最終年度に実施団体との意見交換をし、3次計画につなげていく。

1 高齢者ふれあい給食サービスの活動支援 【3層・学区】

参加者数や回数に応じた助成金を給食サービス実施団体へ交付する。
財源見直しに合わせて、見直しの検討をする。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
給食サービス団体	給食サービスの実施	実施				→
区社協	情報提供・助成金の交付	助成金の見直し (財源見直しに合わせて)			新方式	→

意見交換

現状と課題

NPOと協働で実施している「子育て&子育て にこにこサロン」は昭和区内で徐々に定着してきたが、開催形態など他の子育てサロンとの違いがあまりなく、NPOとの協働を活かせていない。

1次計画の評価

子育て環境の充実のためにNPOと協働で子育てサロンを開催。サロンに参加していた母親たちによる、新たなサロン開設もあった。

2次計画の事業概要・方針

他の子育てサロンと違う機能を持たせるため、役割についてNPOと検討していく。
 サロンにこだわらず、昭和区社協がやるべき子育て支援について考え、新しいスタイルでの実施をめざしていく。

1 にこにこサロンの開催 【2層・区】

食育の実習、障がい児の参加など、役割についてNPOと検討する。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 NPO	実施・検討	実施・検討			新しいスタイルでの実施	→

現状と課題

ボランティアグループが運営を担当し、小学生以下の子どもを対象におもちゃの無料貸出しと、おもちゃで自由に遊べる場を提供している。20年にわたって続いてきている活動で、今ではおもちゃ図書館の存在は子育てサロンのような機能も果たしている。

他区のおもちゃ図書館と比べて利用者もそれほど多くはなく、ボランティアも固定化していたが、新しいメンバーが少しずつ増えてきた。平成20年度に場所が移転し開催日も半分になった。

1次計画の評価

1次計画には記載がなかった。

2次計画の事業概要・方針

参加者へのPRによる利用促進を図る。子育て世帯の集まる場として、子育て情報の発信の場となるよう意識する。新しいボランティアのいっそうの拡大や助成金の見直しなど、運営体制を見直す。

1 「昭和区おもちゃライブラリー ポッポ」の開催 【2層・区】

障がい児の参加呼びかけや、団体・施設への利用PRなどを行う。ボランティア講座等での周知、学校への働きかけなどにより新しいボランティアの拡大を図る。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
ボランティア	運営・利用促進 ボランティアの拡大	実施	→	→	→	→
区社協	運営協力	協力	→	→	→	→

現状と課題

昭和区社協が設置し、介護者の自主運営により情報交換やリフレッシュの場として定期的を開催を続けているが、参加者が固定している。

1次計画の評価

平成14年度に立ち上げたサロンを、介護者による自主運営を促し、平成18年度から介護者が主となって企画・運営を行うようになった。

2次計画の事業概要・方針

新たな参加者を増やすためのPRを行い、家族介護者の交流の場を広げる。引き続き、介護者の主体的な運営を支援する。

1 介護者交流会「おしゃべりサロン」の開催 【2層・区】

昭和区社協内の専門職や昭和区内の介護保険事業所等へのPRを行う。介護を終えた先輩介護者へも参加を呼びかける。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 介護者	サロンの企画・運営	実施				

現状と課題

ボランティアを始めたいが何をやらいいか具体的にわからないという人が多い。また、ボランティアの依頼があったとき、登録者の中で必要なボランティアが見つからないときがある。

1次計画の評価

講座実施後の受講生のフォローができなかったため、活動に結びつかなかった。また、ボランティア連絡協議会の開催する講座とリンクせずに開催してきた。

2次計画の事業概要・方針

新しい人材の発掘や必要とされているボランティアの養成など、ボランティア連絡協議会と協働で実施していく。

1 ボランティア養成講座 【2層・区】

ボランティアの養成と共に、講座後のフォローアップについても行う。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 ボラ連	企画・実施	協働実施				

現状と課題

昭和区は名古屋市内で一番学生が多い区であるにもかかわらず、ボランティア登録している学生は少ない。

1次計画の評価

新たな人材の発掘として、サマーボランティアスクールやふくしチャレンジ隊などを企画・実施してきたが、年々参加者が減り、その後の取り組みにもつながらなかった。

2次計画の事業概要・方針

学生自身が地域の課題を学んだうえで、学生対象のボランティア体験やイベントを企画し、実施していくことを支援する。

1 学生福祉塾 【2層・区】

福祉教育推進プロジェクトチームの協力を得て、学生とともに企画から作り上げていく。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 学生	企画・実施	学生ボラ 実態把握	主要メン バーとの 企画	実施		
プロジェクトチー ム	協力					

現状と課題

近隣関係が希薄になってきた中で、町内や近隣などでの支えあいを増やしていくためには小学校区単位にある福祉推進協議会に期待されるものは大きく、今後も一層活性化していくことが求められる。

昭和区の中でも学区単位で地域課題が異なるため、それぞれの学区に合った取り組みが必要。

1次計画の評価

福祉推進協議会の活動支援として研修会は開催してきたが、各学区への個別の働きかけはなかなかできていなかった。

2次計画の事業概要・方針

学区の担当者を設置し、学区ごとの特色や課題をふまえながら学区にあった取り組みを一緒に考え、実施の協力をしていく。

1 学区福祉活動計画の策定 【3層・学区】

学区福祉活動計画策定を通して、学区の状況に合わせた取り組みを相談・企画していく。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 推進協	策定	2学区策定	2学区策定	3学区策定	3学区策定	1学区策定

2 福祉推進協議会モデル事業 【3層・学区】

学区に合わせたモデル事業の提案と運営の協力をしていく。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協・推進協	実施	実施				
各プロジェクトチーム	協力					

3 福祉推進協議会代表者連絡会 【2層・区】

福祉推進協議会相互の情報交換のための福祉推進協議会代表者連絡会を定期的を開催する。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 推進協	開催	実施				

4 地域福祉推進研修会 【2層・区】

今後の福祉推進協議会の方針についてまとめ、周知していく。

モデル事業が具体的な実施につながるよう、モデル事業の提案や報告をする。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協	企画・実施	実施				
各プロジェクトチーム	協力					

5 福祉推進協議会の活動支援 【3層・学区】

福祉推進協議会の活動資金の一部を助成する。財源見直しに合わせて見直しをする。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協	実施・見直し	見直し(財源見直しに合わせて)			新方式	

現状と課題

結成15年を迎え、活動内容も定着してきたが、役員や会員は固定化している。

1次計画の評価

ボランティア連絡協議会の活動を支援する中で、交流・研修・講座・広報の4つの部会を設置し、部会ごとに分かれて行事を企画運営し実施できるようになってきた。

2次計画の事業概要・方針

ボランティア連絡協議会の会員拡大と周知を図る。また、自主的な会の運営ができるように引き続き支援していく。

1 ボランティア連絡協議会の支援 【2層・区】

登録団体への加入促進・PRや、推進協など地域団体・住民へのPRを行う。また、自主的に会が運営できるよう支援を行う。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
ボランティア連絡協議会	運営・加入促進 地域団体、住民への周知	実施	→			
区社協	運営支援	支援	→			

2 ボランティア連絡協議会の活動支援 【2層・区】

財源の見直しに合わせて、助成金の見直しを行う。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協	助成・見直し検討	見直し			新方式	→

現状と課題

平成19年11月に発足した 防災ボランティアネットワークと連携協力して「ボランティア講座」を開催するほか、平成20年度は学区における防災啓発講座の開催を支援した。毎年行われる昭和区総合防災訓練において災害ボランティアセンター設置運営訓練に協働して参加している。

1 次計画の評価

1次計画でめざしていた防災ボランティアネットワークの設立を支援することができた。防災(災害)ボランティアをつうじて昭和区社協の活動が従来の福祉分野を越えて広がった。いくつかの学区や町内単位で防災講座が開催される等活動が広がりつつある。また地域住民の防災ボランティアネットワークにたいする認知度も上がっている。

2次計画の事業概要・方針

発災後に立ち上がる災害ボランティアセンターの運営を防災ボランティアネットワークと協働して担うため、平時からの連携は重要である。今後も災害ボランティア講座の開催等をつうじて、会の基盤強化、組織拡大を支援し、災害に備えていく。

1 防災ボランティアネットワークの支援 【2層・区】

事務局として会の運営を支援する。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
防災ボランティアネットワーク	運営・加入促進 地域団体、住民への周知	実施	→			
区社協	運営支援	支援	→			

2 防災に関する講座 【2層・区】

防災出前講座の開催を調整し、防災に関する講座を立案、実施する。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 防災ボランティアネットワーク	防災講座の開催調整、実施	実施	→			

3 災害ボランティアセンター設置運営訓練 【2層・区】

防災ボランティアネットワーク、区役所等と協働して準備、参加していく。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 防災ボランティアネットワーク	訓練参加	参加	→			

現状と課題

共同募金配分金や賛助会費を財源として、高齢者や障がい者を始めとする福祉関係団体や各種住民団体が各々に展開する福祉関係事業活動に対し助成を行い、地域住民による福祉コミュニティづくりを支援してきた。また児童遊園地等の整備・維持経費の助成や、在宅生活を支援するボランティアグループの助成も行ってきた。しかし財源である共同募金、賛助会費の実績は伸び悩んでおり、また新たな地域福祉活動の資金需要も予想され、助成方式の大きな見直しが必要な時期に来ている。

1次計画の評価

財源の確保についてはあげられたが、使途の見直し等については触れられなかった。使途の見直しについては着手できないまま今日に至っている。

2次計画の事業概要・方針

下記の団体が行う事業の助成をすることにより、各団体の活動を支援していく。また、財源の見直しに合わせて、助成金の見直しをしていく。

1 児童関係団体の活動支援 【2層・区】

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協	団体事業助成	助成金の見直し			新方式	→

2 心身障がい児者団体の活動支援 【2層・区】

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協	団体事業助成	助成金の見直し			新方式	→

3 高齢者関係団体の活動支援 【2層・区】

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協	団体事業助成	助成金の見直し			新方式	→

4 低所得者世帯の支援 【2層・区】

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協	団体事業助成	助成金の見直し			新方式	→

5 ボランティア・その他団体の活動支援 【2層・区】

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協	団体事業助成	助成金の見直し			新方式	→

現状と課題

近隣での支えあいが減ってきているが、まだその必要性はある。
 地域だけではなく専門職や行政と連携して見守ることが必要だが、近隣のネットワークと専門職とのつながりがあまりない。

1次計画の評価

福祉推進協議会が実施するふれあいネットワーク活動として実施してきたが、学区の負担感が大きく広がらなかった。

2次計画の事業概要・方針

近隣の支えあいのつながりと福祉推進協議会や専門職が連携し合うことで制度やサービスでは補えないことを支えあい、誰もが地域の中で孤立することなく安心して暮らせるよう、こころん支えあいネットを作っていく。

1 こころん支えあいネットの推進 【3・4層・町内・学区】

福祉推進協議会協経由では、すでに学区でとりくんでいるふれあいネットワーク活動や、助け合いのしくみづくりで把握した災害時要援護者からこころん支えあいネットにひろげていく。
 専門職経由では、把握しているケースから近隣や福祉推進協議会をつなげていく。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
推進協	近隣でのネットワーク作り	ふれあいネットワークからの発展・移行 (2学区)		1学区実施	1学区実施	1学区実施
区社協	推進協への働きかけ					
区社協	個々のネットワークと専門職をつなげる	実施				
専門職	近隣での支えあいが必要なケースをあげる					

現状と課題

困った時にどこに相談すればよいかわからず問題を抱えている人や、公的な相談機関まで出向くことができない人がいる。

1次計画の評価

1次計画には記載がなかった。

2次計画の事業概要・方針

困りごとが起こった時にまず相談できるところを学区の中にも作り、地域の個別の困りごとを昭和区社協や専門機関、福祉推進協議会などにつなげられるようにする。

1 相談窓口プロジェクトチームの設置 【2層・区】

作業部会ワーキンググループを中心にプロジェクトチームを設置し、メンバーを拡大しながら一緒に企画・実施していく。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 ワーキンググループ 専門職	プロジェクトチームの設置・運営	設置・運営				▶

2 身近な相談窓口の設置 【3・4層・学区・町内】

事業者連絡会等を通じ、介護保険事業所や施設、薬局などに窓口を依頼。窓口には情報冊子など相談に対応できるような情報を提供していく。住民に相談窓口についての広報を行い、併せて地域の中で呼びかけ、窓口を引き受けてもらえるところを増やしていく。窓口設置後、相談内容の集約や必要な情報の把握等行っていく。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 プロジェクトチーム	窓口の選定・依頼	依頼				▶
施設・事業所 等	窓口設置		設置			▶
区社協 推進協	住民への広報 引き受け手の呼びかけ		広報 呼びかけ			▶
区社協 プロジェクトチーム	相談内容の集約・必要な情報の把握			窓口への フォロー		▶

現状と課題

名古屋市からの委託事業(高齢者はつらつ長寿推進事業)で、昭和区社協は名古屋市の要綱に基づきながらプログラム内容等を工夫し事業を進めている。

1次計画の評価

平成18年10月から始まった事業であるため、1次計画には記載がなかった。

2次計画の事業概要・方針

名古屋市内在住の65歳以上の方を対象に、健康体操やレクリエーションなどの活動を通じて介護予防への理解を促し、自主活動や地域活動等への参加促進を図ることを目的に、週4日、昭和区内8会場を巡回して実施する。

1 はつらつクラブの開催 【2層・区】

- ・参加者への情報提供やプログラム内容の工夫により、自主活動や地域活動へのつながり、住民の交流の機会づくりの支援をする。
- ・PRや内容充実により、新規参加者の増加を目指す。
- ・保健所や地域包括支援センターなどとも連携を図り、参加者や地域の福祉ニーズに気付き、解決に結びつけられるようにする。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協	内容充実、他機関との連携	実施				

現状と課題

ボランティアセンターの存在が、区民にあまり知られていない。昭和区社協内でボランティアニーズを拾うしくみがない。また、ボランティアの依頼があったとき、登録者の中で必要なボランティアが見つからないことがある。

1次計画の評価

ボランティアの依頼に対して100%の調整を目標にしたが、依頼に対する調整は平成19年度で77.3%にとどまった。

2次計画の事業概要・方針

ボランティアセンターの広報に努め、積極的にボランティアの依頼を受けていく。昭和区社協内でも「在宅サービス」「包括支援」「地域づくり支援」のそれぞれの事業の中でキャッチした地域のニーズの収集を行う。また、地域の人材発掘に努め、ボランティアコーディネート機能の向上を図る。

1 ボランティア派遣依頼調整 【2層・区】

昭和区社協内のそれぞれの事業からのニーズ収集のしくみづくりや、地域の人から活動できる人の情報を積極的に集め、ボランティア登録につなげるようにする。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協	相談援助	実施				

現状と課題

昭和区内の高齢者やその家族等から身体状況の低下や生活不安などに対する相談などが多く、公的サービスやインフォーマルサービスへの結びつけを行い、不安や負担の解消を行っている。また、地域住民等からの高齢者虐待に関する相談や昭和区内専門職等からの困難事例への対応などの相談もあり、スムーズに問題解決がされるよう支援を行っている。

1次計画の評価

平成18年4月から実施された事業であり、1次計画には記載がなかった。

2次計画の事業概要・方針

昭和区内の高齢者の保健・医療・福祉に関する相談や関係機関とのネットワークを作り、住み慣れた地域の中で自立した生活が送れるよう重層的・包括的な支援を行う。昭和区内の関係機関と連携を図り、問題の早期発見・対応ができる仕組みを作る。

1 総合相談・権利擁護事業【2層・区】

高齢者や家族に対する総合的な相談・支援虐待の防止、高齢者や家族に対する権利擁護事業を実施する。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 (包括支援)	他機関との連携・実施	実施				▶

2 包括的・継続的ケアマネジメント事業【2層・区】

サービス提供困難ケースへの対応などのケアマネジャーへの支援を実施する。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 (包括支援)	他機関との連携・実施	実施				▶

3 介護予防事業【2層・区】

介護予防事業に関するケアマネジメント業務・介護予防に対する意識啓発を実施する。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 (包括支援)	他機関との連携・実施	実施				▶

現状と課題

昭和区内では、平成21年1月現在で約1,100人ほどの方が要支援認定を受けている。その中で、介護サービスの必要な方に対し、自立支援を支えるケアプラン作りを行っている。

1次計画の評価

平成18年4月から実施された事業であり、1次計画には記載がなかった。

2次計画の事業概要・方針

要支援認定を受けた介護保険サービスの必要な人に対し、自立支援の観点に立った、ケアマネジメントを行い、その人らしく自立した生活が送れるように支援する。

インフォーマルサービスの活用や困難事例ケースへの対応など関係機関と連携した対応を行う。

1 予防給付ケアマネジメント事業【2層・区】

要支援認定を受けた介護保険サービスの必要な人に対し、自立支援の観点に立った、ケアマネジメントを行い、その人らしく自立した生活が送れるように支援する。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 (包括支援)	他機関との連携・実施	実施				▶

現状と課題

認知症の人やその家族が地域の中で生活するにあたり、近隣の住民の理解や協力が得られないため生活に支障が出ていたり、認知症介護者の介護情報の不足や悩みを共感したり、リフレッシュする場が少ないため、介護負担が大きくなっている。

1次計画の評価

平成19年10月からの事業実施であるため、1次計画には記載がなかった。

2次計画の事業概要・方針

各事業への参加者拡大のため、関係機関の協力を得ながら多くの認知症介護者に参加を促し、認知症に対する正しい理解と互いに支えあえる関係作りを行い、介護負担の軽減を図る。

また、昭和区内もの忘れ相談医との連携により、認知症の知識、症状、治療等について面接相談を行い、認知症高齢者やその家族の不安の解消、医療相談を行う。

1 認知症家族教室【2層・区】

認知症介護に悩みのある人で、認知症に対する正しい理解と互いに支えあえる関係作りを行い、介護負担の軽減を図る。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 (包括支援)	実施	開催				▶

2 認知症家族サロン【2層・区】

認知症介護に悩みのある人で、日ごろの介護の悩みや不安を話し合う交流会や情報交換を行い、介護負担の軽減を図る。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 (包括支援)	実施	開催				▶

3 もの忘れ相談医の専門相談【2層・区】

昭和区内もの忘れ相談医との連携により、認知症の知識、症状、治療等について面接相談を行い、認知症高齢者やその家族の不安の解消、医療相談を行う。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 (包括支援)	実施	開催				▶

現状と課題

介護を必要とする状態になっても、できる限り自立した日常生活を過ごすために、その人の持つ疾病からの将来的なリスク予測や予防が求められ、より充実したケアプラン作りが求められる。

1次計画の評価

平成18年4月から実施された事業であり、1次計画には記載がなかった。

2次計画実施計画の事業概要・方針

昭和区医師会の医師からの疾病や支援上の注意点などのアドバイスを受け、より充実したケアプラン作りを行っていく。また、情報共有・ケースカンファレンスを行うことで相互に連携を行える場として幅広く関係者に活用してもらうようにしていく。

1 医療支援事業【2層・区】

昭和区医師会の医師や保健・福祉の関係者によるケースカンファレンスを中心に、関係機関が相互に連絡・連携を行う場として月に1回開催する。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 (包括支援)	実施	実施				

現状と課題

居宅介護支援事業・訪問介護事業・通所介護事業を実施しているが、利用者のサービス以外のニーズが顕在化していない。

1次計画の評価

1次計画においては、特に検討を行わなかった。

事業概要(方向性・5年後の目標)

それぞれの介護保険事業に取り組みながら、利用者の様々な生活上のニーズを把握し、昭和区社協内や他機関につなぐことによりニーズの解決をはかる。

1 居宅介護支援事業【2層・区】

要支援・要介護の高齢者のケアプランの作成や要介護認定の申請代行などを行い、利用者一人ひとりのニーズに合った支援を行う。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 (在宅サービス)	実施					→

2 訪問介護事業【2層・区】

要支援・要介護の高齢者や障がい者を対象にホームヘルパーが家庭を訪問し、一人ひとりの自立を支援しながら日常生活上の援助を行う。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 (在宅サービス)	実施					→

3 通所介護事業【2層・区】

要支援・要介護の高齢者を自宅から送迎し、1日デイサービスセンターで過ごしていただき、体の訓練や入浴、レクリエーションなどを通じて、要介護状態の低減を目指す。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 (在宅サービス)	実施					→

現状と課題

愛知県社協からの受託事務。低所得世帯の修学等のための資金や小口資金の貸付、また高齢者世帯が所有する居住用不動産を担保として生活資金を貸し付ける長期生活支援資金や、失業後の再就職までの間の自立生活支援を図る離職者支援資金の貸付、相談を行っている。昭和区は他の区に比べ貸付、相談件数ともに多くない。

1次計画の評価

1次計画には記載がなかった。

2次計画の事業概要・方針

資金貸付、相談をつうじて低所得世帯、高齢者世帯、障がい者世帯等の自立を支援する。

1 生活福祉資金貸付事業 【2層・区】
貸付、相談事業を実施する。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協	貸付事業	実施				

現状と課題

サービス担当者会議等のケース会議を実施し、個々のサービス利用者に関わる専門職のネットワークはあるが、地域づくり支援に関わる職員や地域住民によるインフォーマルな支えあいとはなかなかつながっていない。

1次計画の評価

1次計画においては、特に検討を行わなかった。

事業概要(方向性・5年後の目標)

サービス利用者の関係する保健・医療・福祉の関係機関との連携や、昭和区社協の中の各事業との連携を深め、”専門職による個々のネットワーク”づくりを進める。

1 専門職による個々のネットワーク【2層・区】

居宅介護支援事業・訪問介護事業・通所介護事業・介護予防事業・予防給付ケアマネジメント事業の個々のサービス利用者に関わる専門職のネットワークづくりを進めるとともに、地域とのつながりも作っていくよう意識する。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協	実施					

現状と課題
 昭和三区内には、様々な福祉関係の連絡組織があり、昭和三区社協も委員として参加したり事務局を担ったりしているが、連絡組織間の情報共有化や連携の取り組みは特に見られず、ネットワーク化が十分にされていない状況である。
 今後は、連絡組織間の連携を高め、分野を超えた福祉のネットワークづくりを進めていくことが必要である。

昭和三区社協の関係している昭和三区内の主な連絡組織
 ・昭和三区地域包括ケア推進会議
 地域包括支援センターと保健・医療・福祉サービスやボランティア活動に関する団体等により構成された、高齢者のための保健・医療・福祉の連携を目指した推進会議。
 ・昭和三区障害者地域自立支援協議会
 障害者地域生活支援センターが中心となり、障がい者の当事者団体、自立支援サービス事業者、各種関係機関等により構成された障がい者の自立支援のための協議会。
 ・昭和三区子育て支援ネットワーク連絡会
 区役所民生子ども課が事務局となり、保育園、幼稚園、子ども会、NPOなど子育て支援の関係機関により構成された連絡会。
 ・昭和三区介護保険関連事業者連絡会
 昭和三区内に事業所を置く介護保険関連事業者により組織された、事業所間の連携とサービスの質を高めるための連絡会。

1次の評価
 1次計画においては、特に検討を行わなかった。

事業概要(方向性・5年後の目標)
 昭和三区内の各連絡組織が、それぞれの分野を超えて連携し、ネットワークを形成していくことを目指す。

1 昭和三区地域包括ケア推進会議【2層・区】
 地域包括支援ネットワークを構築し、高齢者の支援を進めるための協議を行う。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 (包括支援)	事務局					▶

2 昭和三区障害者地域自立支援協議会【2層・区】
 情報提供や情報共有、障害の特性を理解する取り組み、地域づくりへの取り組み、ネットワークの構築などを行う。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協	参加					▶

3 昭和三区子育て支援ネットワーク連絡会【2層・区】
 交流や情報交換を通して連携・協力体制を強化し、子育てネットワークの構築を図り、子育て支援に関する課題を検討する。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協	参加					▶

4 昭和区介護保険関連事業者連絡会【2層・区】
 昭和区内の介護保険関連事業所の一層の連携とサービスの質の向上を図る。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 (在宅サービス)	事務局					▶

現状と課題

昭和区における保健・医療・福祉の課題

1. 昭和区内の保健・医療・福祉に関する情報の集約と発信
 - (1) 関係機関間での情報の共有化
相談者や困っている人に対応するために、他の専門機関等を理解し連携することが必要
 - (2) 地域住民にどのように情報を提供するか
必要な情報が、必要な人に伝わるようにすることが必要
2. 地域の支えあい～フォーマル、インフォーマルの連携
 - (1) 支援のあり方についての検討の場の必要
 - (2) 諸々の会議の体系化の必要
3. 生活環境の改善
 - (1) 社会資源を把握し有効活用すること
 - (2) 必要なサービスや活動の立ち上げ(社会資源の開発)
4. 虐待防止・虐待対応のネットワーク作り
5. 生涯を通じた支援(児童・障がい・高齢の分野を超えた連携)の必要性
 - (1) 相談窓口の明確化
 - (2) 総合相談支援のネットワーク
6. 福祉サービスの評価・事例研究
 - (1) 苦情解決の仕組み
 - (2) 事例研究の蓄積と共有化

1次計画の評価

1次計画では、検討を行わなかった。

2次の事業概要・方針

「住民の暮らしを支える保健・医療・福祉のセーフティーネットづくりの推進」

困った人の相談(ニーズ)を受け止め、解決のため適切な機関等につなぐ仕組みづくりと、そこから広がる専門職のネットワークづくりを推進することにより、昭和区における児童、障がい、高齢の分野を超えた、保健・医療・福祉の包括的なケアシステムを築いていくことを目指す。

1 セーフティーネットの構築と推進のための研究・協議(セーフティーネット委員会の設置)【2層・区】
保健・医療・福祉などの専門職によって構成されるセーフティーネット委員会を設置し、セーフティーネット構築に向けた様々な取り組みを行う。“現状と課題”に記載された課題について取り組めるものから順次取り組む。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協・セーフティーネット委員会	委員会設置、開催	設置・開催	開催			

2 昭和区における保健・医療・福祉の情報冊子【2層・区】 昭和区内の保健・医療・福祉関係者の情報の共有化に役立ち、関係機関の窓口等で使用できる冊子を作成する。						
実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協・セーフティーネット委員会	作成・配布	作成	配布	必要に応じ内容の更新		▶

3 地域住民と専門職の交流・啓発事業【2層・区】 住民に保健・医療・福祉の窓口・サービス等について情報提供し、セーフティーネットの普及啓発に努めるとともに、住民と専門職の一層の信頼関係作りを進める。						
誰が	何を(役割)	H21	H22	H23	H24	H25
区社協・セーフティーネット委員会	企画・実施		企画・実施			▶

4 専門職向けに相互理解・相互学習の場を提供する事業【2層・区】 専門職同士の連携を一層深めるための専門職を対象とした事業を企画し、実施する。						
実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協・セーフティーネット委員会	企画・実施		企画・実施			▶

現状と課題

困ったときに何をどこに相談できるのか、住民にとって必要な情報が届いていない。住民が困ったときに役立つような情報を届ける必要がある。

1次計画の評価

昭和区社協の情報発信として、従来の広報紙の見直し、リーフレットの作成やホームページ開設に取り組んだが、住民の必要としている情報を十分に届けることができなかった。

2次計画の事業概要・方針

住民が困ったときに役立つような情報を集めて冊子を作成し、配布する。

1 情報冊子作成プロジェクトチームの設置 【2層・区】

情報収集・冊子作成・配布を企画実施するために、作業部会ワーキンググループを中心にプロジェクトチームを設置する。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 ワーキンググループ	プロジェクトチームの設置・運営	設置・運営				

2 困ったときのお役立ち情報冊子 【2層・区】

- ・情報を収集・整理して、誰にとっても読みやすく分かりやすい冊子を作成する。
- ・情報を地域に届ける仕組みを検討し、完成した冊子を配布する。住民の身近な相談窓口となり得る新しい担い手の検討・発掘により、冊子の配布先を広げ、様々な方向から地域に情報を届けられる仕組みを考える。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 プロジェクトチーム	情報収集・整理、冊子作成	情報収集	冊子完成	必要に応じ更新		
	情報発信方法・担い手検討、冊子配布	担い手発掘	冊子配布			

現状と課題

昭和区社協事業や福祉に関する情報をよりわかりやすく伝えていくために、引き続き編集委員との検討が必要。

もっと区民の目にふれるよう設置場所の検討や、折込による配布方法が効果があるか検討が必要。

1次計画の評価

以前の広報紙「ふくし」からリニューアルし、区民の参加による編集会議を実施し、幅広い情報を届けるようになった。

2次計画の事業概要・方針

区民に福祉や昭和区社協事業に関心を持ってもらうために、よりわかりやすく情報を伝えられるよう紙面の充実を図る。また、ひとりでも多くの人に情報を届けるために、配布先や配布方法の検討を行う。

1 福祉情報紙『こころんねっと』 【2層・区】

レイアウト・デザイン等を検討し、より見やすい紙面をめざす。第2次活動計画の内容もわかりやすく伝えていく。

設置場所の拡大や『こころんねっと』単独でのポスティングを含めた配布方法について検討する。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 編集委員	紙面の充実	充実	→	→	→	→
	配布先・配布方法の検討			検討	実施	→

現状と課題

在宅サービスセンター内でのボランティアに関する情報がわかりやすく整理されていないため、来所者にとってわかりにくい。ホームページ以外での情報発信がされていない。

1次計画の評価

情報発信はホームページ上での発信をするようになったが、その他の手段はあまり充実させられなかった。

2次計画の事業概要・方針

在宅サービスセンター内で閲覧しやすいようボランティア情報の整理や、ボランティアに関する情報を発信する手段について検討を行い、情報の収集や発信に努める。

1 ボランティア情報の収集・発信 【2層・区】

ボランティア情報スペースや掲示板の設置、登録ボランティアへの情報発信などを検討し、実施する。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協	情報収集・発信の充実		検討	実施		→

現状と課題

ホームページを運営しているが、内容の充実化やタイムリーな情報発信が十分にできていない。

1次計画の評価

住民や施設職員等を委員とする「ホームページ作成検討委員会」を設けて検討を重ね、平成17年4月にホームページを開設した。

2次計画の事業概要・方針

昭和区社協の情報や昭和区内福祉関係情報を発信するために、ホームページを運営する。

1 ホームページの運営 【2層・区】

ホームページでタイムリーな情報発信を図る。また、内容の充実化に向け新たな方向性を探るため、住民をメンバーに含めた「検討委員会」を設け、住民参加の方法を検討・実施する。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協	情報発信	情報発信				▶
	「検討委員会」設置・運営			検討	実施	▶

現状と課題

広報なごや区内版と福祉情報紙『こころんねっと』の点訳及び音訳をボランティアグループに依頼し、希望者に送付しているが、利用者が固定していて拡大していかない。SPコードやデータを音声ソフトで読む方も増えてきているため、今後もニーズの内容が変わっていく可能性がある。

1次計画の評価

1次計画により音訳を開始し、視覚障がい者に音訳テープを届けるようになった。

2次計画の事業概要・方針

引き続き音訳・点訳のPRを行い、利用者の拡大を図る。
新たな情報提供手段について、今後の方向性を検討する。

1 障がいのある人への情報保障 【2層・区】

関係機関とも連携し、PRを行う。昭和区社協の発行物に関してSPコードを付ける等、情報提供手段の検討を行う。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 ボランティアグループ 施設	利用PR 方向性検討	PR				→
				検討	実施	→

現状と課題

在宅介護をしている人にとって介護への理解や介護方法などの情報が少ないために、適切な介護が行えていない現状がある。
事業の周知が不足し、ビデオテープ貸し出し数が少ない現状である。

1次計画の評価

在宅介護に関する知識の習得や情報の提供・啓発のための媒体としては活用価値がある。福祉に関心のある方・情報の必要な方へ情報が届くための事業周知の工夫が必要である

2次計画の事業概要・方針

介護予防や生活支援等に関するビデオテープの貸し出しを行う。
ホームページや広報紙などを活用し、事業の周知を行い、在宅介護に関する知識の習得や情報の提供、啓発を図る。

1 介護関係ビデオの貸出し【2層・区】

介護予防や生活支援等に関するビデオテープの貸出しを行い、在宅介護に関する知識の習得や情報の提供、啓発を図る。

実施主体	実施内容	H21	H22	H23	H24	H25
区社協 (包括支援)	貸し出し	実施				→